

産学が連携する活性化



多摩大学様 (日本)・株式会社 弘久社様 (日本)

学生が企業取材し会社案内を制作。 地域活性化と就職ミスマッチ解消を目指す。

地域連携・地域貢献を目的としたさまざまなプロジェクトを実施する多摩大学様は、多摩地域の弘久社様と連携して、学生が企業の会社案内を制作するプロジェクトを2013年後半に開始しました。この学生目線の会社案内は、掲載企業側には、自社のことを知ってもらう絶好の機会として活かすと同時に、就職のミスマッチ解消に役立てる狙いがあります。一方の大学側には、学生が地域企業のことをより広く深く知ることに加え、地域と大学がより緊密な関係を築くことができるといふメリットが生まれました。始動したばかりのプロジェクトながら、地域活性化への確かな手応えを感じ取っています。



多摩大学 経営情報学部 准教授
奥山 雅之 様

就職ミスマッチ解消に向けて一気に動き出す

今回のプロジェクトのきっかけは2011年、多摩大学様と多摩信用金庫様が、多摩地域企業の採用実態調査を行ったことに端を発します。

2年にわたる調査を終え、調査結果の発表会を開催。調査インタビューを受けた弘久社・平野芳久様もパネラーとして出席しました。このとき、就職のミスマッチを解消するアイデアを聞かれた平野様は「印刷会社を経営する者としての経験から、企業のことを最もよく知る手段は、会社案内をつくるのが最適である」と即答。学生が企業の会社案内を制作することを提案しました。このアイデアに多くの関係者が賛同し、その日の夜には「実現したい」といったメールが飛び交い、一気に具体化へと動き出しました。平野様は、直ちに、このアイデアを含めた事業を東京都経営革新事業に申請し、融資等の優遇措置が受けられるようにしました。これで、産学連携事業に官の後押しが加わりました。

多摩大学様は、地域の企業から学校、町内会まで多摩地域と連携した活動を数多く行って、学内の「地域活性化マネジメントセンター」が地域連携の窓口として機能しています。また、地域の持続的発展に寄与する人材育成の役割も担っています。同センターの委員であり、今回のプロジェクトの統括者でもある奥山雅之様は次のように語ります。

「私は中小企業論を担当していますが、学生は地域の中小企業のことについて、ほとんど知らない状況です。多摩地域は中小企業といえども優良な企業が数多く、自分の生きがい・やりがいにマッチする企業を探すのは非常に重要だと常々感じていましたので、平野社長からプロジェクトの話聞いたときには、ぜひトライしたいと思いましたね」

通常、同大学ではゼミ単位でプロジェクトを実施しますが、今回は

6ゼミ合同の総勢約30名(2・3年生中心)で実施。「全学をあげてのプロジェクト」として展開されました。

学生自身で企業にアポを取り取材

プロジェクトは「現代の志塾」を標榜する多摩大学様にちなみ、「志(こころざし)企業 会社案内プロジェクト」と名づけられました。地域の高い志を持つ中小企業をより広く深く知ろうという思いも込められています。プロジェクトでは、まず、地域企業とのネットワークを持つ多摩信用金庫様が対象企業をリストアップ。同信用金庫・酒井克彦様と奥山様、弘久社・内山様の三者が企業を訪れ、プロジェクトの趣旨を説明し、賛同を得られた企業に、学生がインタビューに行くことになりました。

事前にビジネススマナーのレクチャーを受けた学生は、自身で企業に電話で取材アポをとります。取材当日も学生だけで訪問し、社長や社員にインタビューします。取材にあたっては、あらかじめ質問項目を送付し、インタビューがスムーズにいくよう配慮がなされました。

その後の会社案内制作にあたっては、弘久社様が学生に作り方をレクチャー。学生が効率的に会社案内を制作できるよう、さまざまなテンプレートを用意しました。2013年夏に動き出し、6ゼミで計13社の企業を訪問。2014年2月には、完成した会社案内は順次



弘久社 代表取締役社長
平野 芳久 様



弘久社 人事・総務部 課長
内山 道久 様



プロジェクトに参加した学生。
2・3年生が中心で、ゼミによって4年生も参加した。

2013年度 多摩大学地域プロジェクト発表祭



地域活性化マネジメントセンターを中心に「プロジェクト型地域学習」を推進する多摩大学様では、各プロジェクトの成果を地域の人々と共有するための発表会「多摩大学地域プロジェクト発表祭」を開催している。第5回を迎えた今回は、2013年12月22日に開催。

過去最大となる35件のプロジェクトが発表された。トッパッターの「志企業 会社案内プロジェクト」の発表では、学生だけでなく、地域の企業や人々の姿も目立ち、関心の高さをうかがわれた。

ポータルサイト「TAMAエクセレントカンパニーズ」にアップされる予定です。

地域貢献、学生の気づきなど多様な成果

会社案内は制作中ながら、すでにいくつかの成果をあげています。プロジェクト開始にあたって、3つの目的が掲げられていました。1つめは、企業へのアポ取りや訪問・インタビューを通じて、社会人基礎力を身につけること。2つめは、企業社長に直接インタビューすることで生きた経営学を学ぶこと。3つめは、多摩地域にある中小企業を知ること。いずれも効果が上がっていることが、参加した学生の声から読み取れます。

最も多かった声は、「自分が考えていたイメージと違った」というもの。マンション・改修を行う会社を訪れた学生は、「建設業と聞くと体を動かす仕事というイメージだったが、実際はきれいなオフィスにパソコンが並び、建設業のイメージが変わった」といいます。また、若手社員が高いモチベーションで働く姿を見て「仕事=苦というイメージがなくなった」、社長が社員の笑顔を大切にしているという話を聞き、「仕事はお金を稼ぐ・仕方なくやるというイメージが強かったが、生きがい・やりがいが最も大事だと感じた」と、学生はそれぞれに新たな発見・気づきを得ており、生きた経営学を学んだり、多摩地域の企業を知ったりするという目的が達成されたことをうかがわれます。

また、企業社内を見学した際に、社員がわざわざ立ち上がって「こんにちは」と自分たち目線に向けて挨拶された学生は、「社会人としての基本マナーが大切であることを身を持って体感した」といいます。さらに、障がい者の就労支援等を行うNPO法人を訪れた学生は、生き生きと働く障がい者の方々を見て「自分が思っていた障がい者のイメージがガラリと変わった」と話し、社会人として、また人間としての成長を促すきっかけともなったようです。インタビューを受けた企業社長から、言葉使いが適切でない学生に「教育的指導」を行うケースもあり、学内の授業では味わえない貴重な体験となりました。

今回のプロジェクトに参加した企業から「多摩大生にぜひうちに来てほしい」とオファーがあり、プロジェクトに関わった学生ではありませんが、4年生の就職が決まるという成果も生み出しました。「100点満点とはいえませんが、総合的に見て非常に大きな成果があったと考えています。教育効果、社会貢献という観点から見ても有効であることがわかりました。地域の企業と大学の距離がより

近くなったという効果もあったと感じています」

地域企業との接点の拡充へ

地域企業との連携と官の後押しを受けて全学をあげて行い、早くも成果を生んだ「志企業 会社案内プロジェクト」。これを弾みに、今後もその取り組みを継続したいと奥山様は意気込みますが、課題もあげています。

「当大学はデザイン系の大学ではありませんので、会社案内を見栄え良くするのはなかなか難しい。また、情報をまとめる作業を効率化すること、集まった企業情報を全学で共有することも課題です」今回のプロジェクトの牽引役の一人である平野様も、今後も引き続きサポートしていく考えです。

「私の志は、本業と社会貢献を両立すること。それを同時に達成できるように取り組みたいですね。現在、当社では新規開拓に力を入れていますが、究極は多摩地域のすべての優良企業とおつきあいをしたい。地域の企業と接点をつくることのできる今回のプロジェクトは、その大きな推進力になると考えています」

平野様のアイデアから始まった活動は、多摩大学様を中核に地域の中小企業を巻き込みながら、地域活性化を促進すると同時に、就職のミスマッチ解消への確かな一歩となりそうです。

ポータルサイト「TAMAエクセレントカンパニーズ」

多摩地域に本社を構え、売上規模が10億円を超える優良企業を紹介するポータルサイト。登録企業は約1,500社(2014年1月)。多摩地域は、全国的に見ても企業・大学・研究機関の集積が高く、地域産業発展の可能性を持つ。それだけに、知られていないながらも優良な企業は数多い。「志企業 会社案内プロジェクト」で制作された会社案内は、このサイトの各企業のページに掲載される予定です。

<http://tama-exc.com/>

